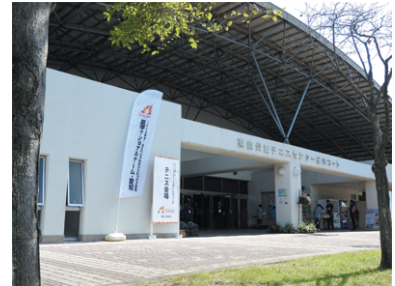


スペシャルオリンピックス(SO)の医療ボランティアに参加して

坪内 一正

9月23、24の二日間にわたってSOテニス会場のボランティアに参加しました、その報告及び感想を述べたいと思います。まず会場では非常に頼もしく受け入れられました。鍼灸師ですと言ったにもかかわらずドクターとして扱われ、信頼されていると実感できました。



初日は気分が悪くなったボランティアメンバーが訪れましたが、水分とスポーツドリンクの補給をしてしばらく休んだだけで復帰されました。あとは転んで膝を擦りむいたアスリートに医師が消毒とバンドエイドを処置され初日修了でした。

最終日の表彰式後に一人のアスリートが訪れました。メダルをもらったうれしさとやっと終わったという安堵感が、前日の疲労と重なったようで顔色も悪く寝転んでいました。私は競技がすべて終わったこともあり、安心して表彰式を見ていたため全く気が付かず、救護所へ帰って初めてその存在に気が付いたのでした。すでに医師が診察された後でそのアスリートは横になり、コーチがその横で見守っていました。コーチの話では前夜に嘔吐したため朝食をとらず飲み物だけの摂取で競技したとのことでした。医師の許可を得て持っていたパルスオキシメーターでSPO2を測定したところ98%、脈拍66で正常と判断されました。低血糖が疑われるため準備していた飴を食べよう勧めましたがいらぬとのことでした。首の後ろが暑いと訴えられたのでアイシングの準備をして日本手ぬぐいに包み後頭部を冷やしてもらいました。



10分ほどで笑顔が出るようになり、無事にバスに乗り出発され安堵しましたが、医師や看護師にクーラーボックスや氷などについて問われたので自前で準備したものであることを説明すると大変驚かれました。

全てが終了し、とりあえず救急搬送などの重大な場面に出会うこともなく無事に役目を果たせたことを医師、看護師ともども喜びを分かち合いました。この経験を通して気が付いたことがあります。会場にはファーストエイドキットが準備されていましたが、医師や一緒に活動した医療ボランティアの経験も豊富な看護師も器材などの準備に関しては組織的にされているとは言えませんでした。一方私たちは事前の準備や知的障害者に対する接し方の予備知識など極めて組織された準備であったと言え、今後もこうした活動に参加していくにあたってはこれを継続することが重要であると考えます。以下は今後のための提言です。

- 1.会場にはファーストエイドキット程度の備品しか無いものと心得ておく
- 2.体温計、血圧計、パルスオキシメーターなどあったほうが良いものは本会で準備する
- 3.できれば医師が使えるように血糖値測定器も準備できるとよいかも